

ふかまのまど

第三〇号・三年九月一日
発行元 深町連合町内会
連絡先 空三三・三五二

連合町内会だより

祝 敬老の日

深町連合町内会

文化部長 安藤 志保

深町のご長寿のみなさま、敬老の日おめでとうございます。健康やかに過ごしてのこと、お慶び申し上げます。

ご長寿をお祝いして、75歳以上の方々に、各講・班の役員のみなさまにご協力をお願いして、記念品をお届けさせていただきました。今年度は188人いらっしゃいます。祝賀会につきましては、誠に残念ながら、感染症の状況を鑑みて中止させていただきます。

新型コロナウイルス感染症の広がりに、かれこれ2年半。町内会としても様々な行事の縮小・中止を余儀なくされています。食事、睡眠、適度な運動、家族・友人・近所など社会との接点を大切に、笑顔で元気に過ごしていただければ、心より願っております。

岡田市長より

お祝い

お元気に敬老の日を迎えられましたことを、謹んでお祝い申し上げます。皆様がいままで健康やかに、生きがいを持って、毎日を笑顔で過ごされますよう、心からお祈り申し上げます。

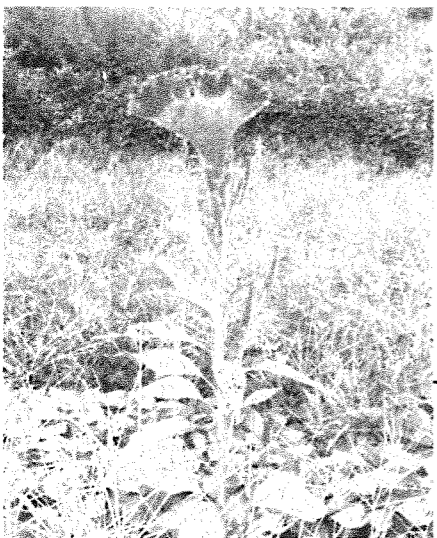
令和四年九月

三原市長

岡田吉弘

豆コラム

ケイトウ



属名のセロシアとは燃えるという意味。和名のケイトウ（鶏頭）は字のとおり、花がニワトリの頭のようなからです。

これは奈良時代に渡来し、カラアイと呼ばれ、染色に利用されていました。

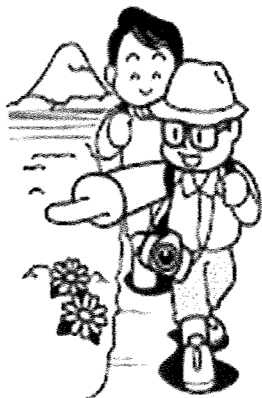
歩く会にご参加を

歩く会幹事

石井 堂照

三原市小泉町

白滝山(大滑の滝・龍泉寺)



月日 九月十三日(火)
予備日 二十日(火)

行程

八時三〇分 深町上組公民館発
九時三〇分 白滝山山道より

探訪開始
大滑の滝より龍泉寺・山頂へ

十二時三〇 探訪終了 昼食
十三時〇〇分 深町上組公民館着(車)
○歩く会の参加をお願い致します。

「ふかまのまど」ホームページのアドレスは
<http://www.jcat.ne.jp/~fuka/top.html>

サロン深つかふか

協力者一同

9月記事担当 渡部 純子

4月から始まりました「お茶の間サロン(仮)」も3カ月が経ち、「サロン深つかふか」という正式名称となつて毎週楽しく活動しています。

4月に行った体力測定から3か月経ちましたので、第2回の体力測定を行いました。体力が向上した方、現状維持できていた方など様々でしたが、今後もいきいき体操をはじめいろいろな活動を継続していくことで、体力維持につながればと思います。

8月は、いきいき体操のほかに、タオル体操、やさ体操、三原市歌に合わせてストレッチ、歌、ハンドベル、フラダンス、お手玉などを行いました。また、グループを作ってお互いの自己紹介をし、あまり話したことがない人と楽しくお話をすることができました。まだ参加していない方も、どうぞお気軽に参加ください。いろいろな活動を楽しんで行こうと、心も体も元気になりましょう。

また、「こんな活動がしたい」というご意見がありましたら、どうぞお寄せください。

9月の予定
水曜10時~11時30分
7日・14日・21日・28日
持ってくるもの
・飲物・屋内シューズ
・フェイスタオル(長いタオル・体操に使用)



Instagram
<https://www.instagram.com/fukamachi.ochanoma/>



問い合わせ先(安藤)
090-5265-13855

謹んでお悔やみ申し上げます

奈賀 光子 様 百歳
(上組 清国講) 七月六日
向井 夏江 様 九十四歳
(上組 高下講) 八月一日

深町各種団体九月行事予定

- ◆連合町内会 一八日
- ◆敬老会(記念品) 一八日
- ◆小学校
- ◆始業式 一日
- ◆科学研究作品展 三・四日
- ◆委員会 五日
- ◆スクールカウンセラー 一四日
- ◆参観日・学級懇談会 一六日
- ◆尿検査 二九日
- ◆如水館中学・高校
- ◆朝会后面談 一日
- ◆学力推移調査(中全学年) 三日
- ◆学年朝会(高一年) 七日
- ◆学年朝会(高二年) 八日
- ◆学年朝会(高三年) 九日
- ◆指定校(二次)校内選考試験 一三日
- ◆進路説明(中) 一四日
- ◆社会見学(中) 一五日
- ◆水明祭準備
- ◆私学尾三地区合同説明会(中) 一六日
- ◆水明祭
- ◆私学尾三地区合同説明会(高) 一七日
- ◆指定校申し込み締切(高) 二一日
- ◆南部地区新人戦(中) 二四・二五日
- ◆各委員会(中)
- ◆高一進路ガイダンス 二八日

深町子どもを守る会

子どもをいじめないで

いじめないで

深小の子供は



○午後三時半過ぎに下校します。

※下校時間は日によって

異なる場合があります。

○近頃、いじめ、いじめ防止

見守りをお願いします。

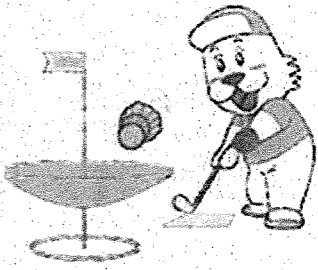
○おこわい

高たきまつまつ。

T B G 協会だより



三原市月例・令和四年八月
ターゲット・
パードゴルフ大会



三原市T B G月例会大会が、八月二十日(土)に十九名の参加で深町・城山コースにて行われました。成績は、次の通りです。

- 一位 三崎 卓夫
- 二位 藤岡 正胖
- 三位 笠井 隆三
- ベスグロ 七十一三崎 卓夫
- ホールインワン 山内 好己
- 二人戦 一位 林 洋祐
井上 キヨコ

次回の大会は、九月十七日(土)に行います。

※選手の敬称略
T B G 協会

会長 船本 雄三

新修 深郷土誌より (抜粋)

一、神社

千川神社 (八幡宮)

源氏を中心とする関東武士団が武神として八幡を信仰したことから、関東武士の勢力が拡大する鎌倉時代に入って八幡宮が各地に勧請され、八幡信仰が普及していった。

備後国栗原へは有力御家人だった千葉氏梶原氏が入ってきたので、その影響を受けたと思われる。深の八幡宮は、地名から千川神社と呼称している。勸請年記は元和二年(一六一六)となっており、おそらく有力八幡宮の分霊を迎えてきたものと思われる。

- 一、建立○元和二年(一六一六) 創建
- 貞享二年(一六八五) 享保五年(一七二〇) 文政十年(一八二七) に改築。
- 大正十三年(一九二四) 本殿新築
- 大正十五年(一九二六) 神楽舞殿新築

- 二、祭神 帶中津日子命 品阿和氣命 息長帶日売命 大山津見命
- 三、祭日 毎年十月十七日 現在 十月第三土曜日
- 四、歴代宮司 初代 山持直次 二十四年余勤続 二代 山持 明 大正四年(一九一五)より 三代 山持龍郎 昭和四十五年(一九七〇)より

尚、明治四十二年(一九〇九)広島県知事の許可を受け、次の神社、祠を合併合祀した。

- 境内神社 一、八幡神社祭神 須佐之男命 二、所主神社祭神 大國主命 三、荒神社祭神 須佐之男命 四、黄幡神社祭神 大山津見命 五、貴船神社祭神 高靈命

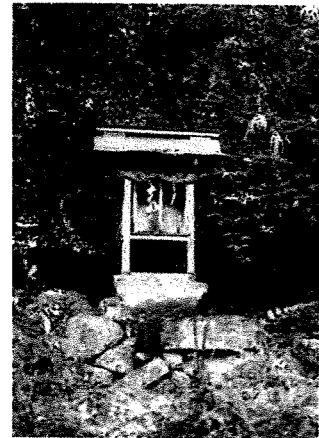
- 合併祠 1.馬地皇子祠 2.馬地山神祠 3.高下明現祠 4.清国黄幡祠 5.平岡荒神祠 6.成瀬荒神祠 7.成瀬大池神祠 8.地主神祠 9.門之奥荒神祠 10.小城山下荒神祠 11.村上荒神祠 12.正光地荒神祠 13.聖光地大蔵神祠 14.小畑明現祠 15.中幸良明現祠 16.千川天皇社 17.金売十二神祠 18.硫黄口荒神祠 19.綱掛荒神祠 20.八日荒神祠

所主権現

文政二年(一八一九)の深の古地図に、所主権現(仏・菩薩にならって称した神号)がでていいる。所主権現は深開拓のご先祖で、通称「とこんし」という所に神社を設け、その開拓者を神様として奉祀したものである。

先祖は伊予の国(現在の愛媛県)の大三島から深の土地に居住したという。奉祀した年代は不詳だが、約七百年以前の鎌倉時代の創建と伝えられている。

元和二年(一六一六)に千川神社が創建されるまで所主権現は深の一の宮であったと思われる。明治四十二年(一九〇九)に千川神社の末社として転祀された。毎年旧暦七月十六日には、如何なる凶作の歳も必ず太鼓踊りを奉納するならわしがあつた。又、二の宮として崇拝したもので、旧暦九月十八日に祭典を執行していた。現在、元の場所に小さな祠がある。



所主権現

二、仏閣

浄土真宗 善通寺 山号香雲山 善通寺略歴

下組河原キクヨ宅西隣(現在柿畑)にあつたお寺。

善通寺の開祖は臨済宗本山佛通寺第六世宗満禪師により永徳二年(一三八二)に建立する仏通寺の末寺であつた。第六世寂靜師の代、浄土真宗に転宗する。第十二世香清師の代に焼失し、以後寺族も死亡、四十余年間無住となる。寛政九年(一七九七)頃、尾道浄泉寺より願乗師が来寺して再建立する。

寺は中野村寺谷の山中にあり、式間四方のお堂に御木仏像二体安置されていた。参道不便と用水が乏しく困り、第三世海城師の代、明治十一年(一八七八)五月に深村下組へ寺を移す。大正四年(一九一五)三月二十七日、寺院全焼するも同年十月再建。

大正十三年(一九二四)五月、第四世秀諦師の代、広島市水主町へ移転。(水主町には第五世秀見師が布教のため以前より住んでいた。)大正十四年(一九二五)第五世秀見師の代広島市蟹屋町に寺院を建立する。昭和二十年八月六日、原子爆弾により本堂大破し、同二十七日倒壊する。

昭和二十三年本堂再建する。昭和五十三年十二月、第六世秀生師代、本堂庫裡建立する。現在門信徒二百戸余ある。二、本尊 御木仏阿弥陀如来

- 三、善通寺住職世代(寛政後) 再建立 願乗法師 第二世 智海法師 第三世 海城法師 第四世 秀諦法師 第五世 秀見法師 第六世 秀生法師 第七世 知行 師(現在)

四、善通寺の住所 広島市南区蟹屋一丁目六番十一号

金剛寺由緒

金剛寺由緒 本文は8月号に先行掲載させてもらいました。

聖光庵

関ヶ原の役の後、深の城主石原氏は毛利氏に従い深を離れた。石原氏の菩提寺医王山正光寺は、施主を失い荒廃した。里人はこれを惜しんで小庵を結び、本尊阿弥陀如来坐像を安置した。これを聖光庵といつた。聖光庵の創建は確かではないが、仏壇の位牌から今から二百年前ごろ建立されたと思われる。



在りし日の聖光庵

文化四年(一八〇七)丁卯 當庵開基一寶榮心沙彌 正月十七日

明治二十二年(一八八九)深田村が成立すると役場としても利用された。昭和二年(一九二七)中組公会堂と兼用で新築された。戦後は、三原市(合併後の昭和二十六年(一九五二)から昭和三十五年(一九六〇)までは、三原市役所深町支所にもなった。昭和五十八年(一九八三)深町民会館として竣工し、利用度は高い。尚、仏間のある町民会館は誠に珍しい。

廃寺(芸藩通志より)

廃正光寺、萬海寺 共に深村にあり、正光寺址には古墓数多あり、村の故城主石原氏が菩提所なりという。萬海寺は寺号存するのみ。



ごみのポイ捨てはだめ わがまちをこみのないきれいなまちに

犬のフンは 飼いが 責任を持ってしましましょう。

